



いばらきの味覚

しらす

生しらすはプリプリとした食感で大人気。しかし、すぐに鮮度が落ちてしまい、本来のおいしさを味わうことは、水揚げする漁港の近く、しかも漁期でないと難しいとされてきました。そんな課題を解決するべく立ち上がったのが、茨城県のしらす漁師たちです。まず着手したのは、茨城県水産試験場が開発した鮮度管理技術の導入と、漁獲から船上処理、原料選定、洗浄まで一連の工程の精度とスピードの向上。そして、徹底した品質へのこだわりから生しらすを冷凍した「海の輝き」と「ひたち浜漬け」の商品化にこぎつけました。いずれも冷凍品で保存性・可搬性に優れているのが何よりの魅力。解凍後もほとんど型くずれがなく、いつでも獲れたての食感と透明感を楽しめます。

主な内容

- ▼ 3県合同会議を栃木県で開催
- ▼ 役員が日立建機工場など視察
- ▼ 中高生がインターンシップ

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

老朽化やICTに対応

茨城 栃木 群馬

3県の建設業協会が合同会議

平成30年度（第37回）茨城・栃木・群馬3県建設業協会合同会議が7月26日、栃木県那須町のホテルエピナール那須で開かれました。3県協会の正副会長や常任理事など多数が出席し、①インフラ老朽化への対応②建設キャリアアップシステムへの対応③技術者スキルアップ研修の推進④受注者側から見た週休2日制と見える化工程⑤地域の守り手活動⑥i-Constructionの推進と生産性の向上—の6議案について、活発に意見を交換しました。



石津茨城県会長



渡邊栃木県会長



青柳群馬県会長

栃木県建協の渡邊勇雄会長は「多発する自然災害対応への社会的貢献を果たすには、適正な利潤が得られ、経営基盤を安定させることが重要。継続的な担い手の確保や育成ができる好循環の形成が求められる。本日の会議が有意義なものとなるよう祈念申し上げます」とあいさつ。

本会の石津健光会長は「働き方改革や週休2日制は避けては通れない大きな課題。業界の労働慣行などを考えれば、自助努力だけでは導入は非常に難しい。業界、そして発注者も含めて、全体で対応しなければ解決の道は開けないのではないかと。本日の意見交換会を通じて、解決の糸口を見つけないか」と問題提起。

群馬県建協の青柳剛会長は「自然災害が毎年頻発する状況は、景気の後退に結び付きかねない。こうした時こそ業界がまとまり、地方建設業の本来の役割を発信しなければならない。北関東3県のコミュニケーションを深めたい」と述べた。

意見交換会では3県が直面する課題を持ち寄り、活発に意見を交換しました。本会では「インフラ老朽化への対応について」、「建設キャリアアップシステムへの対応について」の2件を提示。本県の現状を説明するとともに、栃木県と群馬県の状況について意見を求めました。



3県が直面する課題について話し合いました

働き方改革など議論

建設キャリアアップシステムも

3 県合同会議の意見交換テーマ

【インフラ老朽化への対応】

◆茨城県提案

本会はインフラ老朽化への対応について、県と茨城大学が連携する「いばらき社会インフラメンテナンス技術者育成制度設立準備会」に参加していることを説明し、各県の取り組みや技術者育成について意見を求めました。栃木県協会は「各支部単位に設置した組合が県の道路河川等維持管理業務を共同受注している」と回答しました。



【受注者側から見た週休2日制と見える化工程】

◆群馬県提案

群馬県協会は発注者と受注者が共同で「見える化工程表」を今年度に作成。必要な工期の確保や中間検査の日程等の確認など、現在は試行段階にあります。各県協会とも「若年労働者の確保に週休2日制は有効」で一致。山積する課題を克服しつつ、業界を挙げて取り組んでいきます。

【i-Constructionの推進と生産性の向上】

◆栃木県提案

栃木県協会は「受講費用が高額で、教習所が少ないことから、講習費用の助成制度の創設や国技術事務所等において安価な講座を開催するなどの施策が必要」とし、本会は「今年度、県は42件のICTモデル工事を発注する。会員企業が技術の流れに対応できるようICT講習を開催した。3Dデータのオープンソース化に期待している」と応じました。群馬県協会はICT施工を推進するには①実際に体験②技術者の養成③補助金活用-の3つを機能させることが必要と訴えました。

来賓あいさつ



上原宇都宮国道所長

来賓には国土交通省の上原重賢宇都宮国道事務所長、栃木県県土整備部の江連隆信部長、上野寿幸技術管理課主幹が招かれました。

上原所長は老朽インフラに関し「全国には73万の橋梁があり、7割が市町村管理。道路メンテナンス会議で支援

している」と発言。週休2日工事では「収益が悪化するようでは本末転倒。建設業の健全発展に努めていく」と述べました。

地域の守り手を考慮した発注方法では「地域密着工事型、自治体実績評価型の地域貢献度や地域精通度を評価した入札契約方式を採用している」とし、ICT講習は「今年度は無料のICT講習を10回以上開催する。ぜひ参加してほしい」と呼び掛けました。

ICTへの知識深める

役員らが日立建機の工場などを視察



日立建機の工場や ICT デモサイトを視察しました

本会の常任理事会は7月18日、日立建機(株)の土浦工場およびひたちなかICTデモサイトを視察しました。ICT建機に試乗したほか、VR(バーチャルリアリティ)や運転シミュレータなどの最新技術に触れ、ICT施工に対する理解を深めました。

午前中には日立建機の研究、開発、生産の中心であるマザー工場の土浦工場を見学。冒頭のあいさつで石津健光会長は「国や県のICTへの思いは強く、われわれとしてもICT技術の向上に役に立つということで、本県を代表するメーカーである日立建機様にご協力いただき、本日の見学会を開催させていただいた」と見学会の趣旨を説明。「本県がICTの先進県といわれるよう、メーカーの皆様とパートナーシップを結びながら、



コストダウンや技術革新を進めていければ」と期待を寄せました。

その後、同社に関する映像を視聴するとともに、VRや運転シミュレータなどの最先端技術を体験。また、工場の生産ラインを見て回りました。

ひたちなかICTデモサイトでは、研修棟でi-Constructionなどについて説明を受けると、続いて屋外でICT油圧ショベル「ZAXIS200x」に試乗しました。

その後は研修棟に戻り、活発に意見を交換。参加者からは安全面やコスト面などについての質問が寄せられました。また、同社の担当者は「どんなことでもよいので現場の意見をもっといただきたい。皆さまと一緒に取り組んでいければ」と話していました。

大子支部が全建功労者表彰受賞

道路美化などで地域貢献

全国建設業協会（近藤晴貞会長）の功労者表彰が、7月20日に東京都千代田区大手町の経団連会館で行われました。本会の大子支部（大藤博文支部長）が紅葉シーズンにあわせて毎年取り組んでいる恒例の道路環境美化など数件の活動事例が高く評価され、功労者表彰として受賞の栄に輝きました。

この功労者表彰は、建設業社会貢献活動推進月間にあたる中央行事の席上、伝達されたものです。

受賞した大藤支部長は「地道に取り組んできたわれわれの活動が評価されたことをうれしく思います。4年前から始めた特定外来生物駆除の成果は目に見えて表れており、地域住民の方にもご協力いただいています。今後も地域貢献に努めてま



大藤支部長（左）が表彰状を受け取りました

いります」と喜びを口にしました。

大子支部では、数多くの社会貢献活動に積極的に寄与し、特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除作業や道路清掃活動、小中学生を対象にした体験学習などに継続的に取り組んでいます。

高校生に建設業の魅力PR ～水戸農業高校で進路講話～

本会は6月29日、県立水戸農業高校の農業土木科の生徒に建設業の魅力などを説明する進路講話を同高校で行いました。

講話で人財開発委員会の高橋修一委員長は、建設業は地球で生活・生存する上で必要とされる仕事であり、必要な社会インフラをエコシステム



（生態系）を破壊しないで作る産業と説明。「建設業が無くなれば、その時は人の生活は成り立たない。天から大きな使命を与えられたのが建設業であり、そこで働く人たち」と述べました。

さらに、「建設業で働くことは人の役に立ち、人に喜ばれる人間になれる」と強調し、「卒業後の進路として建設業を選んでほしい」と話しました。

参加した生徒からは、資格を取るメリット、高校卒と大学卒の働く上での違いなどの質問が出ました。

その後は、生徒による現場実習の体験談の発表、さらに現場実習のポイントを受入企業が説明。また、建設業への進路選択に向けた心構えについて、会員企業各社が説明しました。

中高生インターンシップを実施

水戸一中 木材切断やボード貼り体験



水戸市立第一中学校のインターンシップが7月23、24日に行われ、水戸支部（尾曾正人支部長）の㈱西山工務店が代表構成員を務めるJVが生徒5人を受け入れました。生徒たちは水戸市が発注した河和田住宅新築（第8工区）工場の現場を見学するとともに、ボード貼りのこぎりによる木材切断、電動ドリ



ルドライバーを使ってのネジ締めなどを体験し、建設業に親しみました。

参加した生徒に話を聞くと、5人のうち4人が将来の職業として建設業を志望。班長を務めた川井拓哉さんは「高いところでも仕事をしている人がいて、皆で頑張っているんだなと思いました」と話してくれました。

友部高校 建設業のイメージ“良くなった”



7月25、26日の2日間にわたり、県立友部高等学校のインターンシップが行われました。水戸支部の水戸土建工業㈱が協力し、2年生2人を受け入れました。

生徒たちは初日にCADによる平面図形の作成や工事の起工から竣工までの流れなどを学びました。2日目は、基礎工事が始まる



ひたちなか市内の金上保育園改築工事の現場で、測量作業やドローン操作を体験したほか、重機にも試乗しました。

生徒からは「建設業に対するイメージが良くなった」「重機やドローンの操作が楽しかった」「CADを使っての図面作成に興味を湧いた」などの声が挙がりました。

委員会活動報告

ICT講習会を企画

土木委員会

土木委員会（梅原基弘委員長）が7月19日に本会本部で開かれ、今年度の実施事業などについて話し合いました。今年度はICT講習会の開催や働き方改革などに取り組みます。

また、災害対応に係る体制の推進や発注機関および関連団体等との意見交換会なども実施していきます。



10月ごろにセミナー

人財開発委員会

人財開発委員会（高橋修一委員長）は7月25日、今年度で開催するセミナーなどについて話し合いました。内容は働き方改革に関するものとし、10月ごろに開催する予定です。

委員会の名称については、「人材開発委員会」から「人財開発委員会」に変更となりました。



リーダーとしてスキルアップ

中堅社員対象に実践的研修



講師の花輪氏

本会や国、県などで構成する県建設産業担い手確保・育成ネットワーク協議会は6月28日、「建設業中堅社員リーダースキルアップ研修」を水戸市の県建設技術研修センターで開催しました。構成団体の会員企業などから約120人が参加し、信頼されるリーダーの条件やコミュニケーション力について学びました。

この研修会は、今後の企業発展においてキーパーソンとなる中堅社員に、組織における自身の役割とリーダーとして求められる条件などを理解してもらうために企画されたものです。

講師は全国建設産業教育訓練協会富士教育訓

練センター講師の花輪孝樹氏。

グループに分かれて理想のリーダーについて話し合い、グループリーダーとなった参加者が「適切な指示ができる」「決断力、実行力がある」「頼りがいがあり、安全に仕事を進められる」といった意見を発表するなど、実践的な訓練を通じてスキルアップを図りました。



リーダーとしてのスキルを高めました

竜ヶ崎支部
活動報告

除草安全講習 約80人が参加



竜ヶ崎支部（細谷武史支部長）は6月28日、県竜ヶ崎工事事務所の後援を受け、支部会館で除草工事における安全教育講習会を開催しました。

約80人が参加し、「刈払機取扱作業安全衛生教育テキスト」を使った講習、旧竜ヶ崎工事事務所跡地での実習を実施したほか、草刈集草機の取り扱い講習も行いました。

建設フェスタ
2018

10月27日 笠松運動公園 初の土曜日開催



日時や内容などを話し合いました

「建設フェスタ2018」が、10月27日（土）にひたちなか市の笠松運動公園で開催されることに決まりました。県内で行われるイベントなどを考慮し、今年初の土曜日開催となります。

7月18日に実行委員会（委員長＝小林圭一本会建設未来協議会長）が水戸市の県建設技術管理センターで開かれ、開催日や会場、スケジュールなどについて話し合いました。

太田支部
活動報告

美しい景観へ 道路清掃活動

太田支部（瀬谷實支部長）は7月20日、常陸太田市の山吹運動公園の外周道路で美化活動を行いました。今年5月に植栽したシバザクラを傷つけないよう、手鎌を使って丁寧に作業しました。

瀬谷支部長は「このあたりは住民の皆様が散歩などでよく通る道。地域の方々と協力して美しい景観を保ちたい」と話しました。



会員の動向

〈代表者変更〉

▽ 潮来支部
(株)サンワ興業 大川 規之 → 大川 文子

ちよつと一言

年齢を重ねると、気にかかることは健康のことです。調子込んで、暴飲・暴食すると、直ぐに身体に変化が現れてきます。糖分のことや塩分のことなど、食べるものに気を付けてもきりがありません。しかし、健康診断を受診するたび、普段から健康管理をしていない自分に反省します。そのため、人生の折り返しから、健康と社会への奉仕の思いから献血(400ml)をしています。やっと60回を超えましたが、100回を目標に楽しんで献血をしています。(N)